

New Sophia Hospital

ニューソフィアホスピタル

福岡歯科大学医科歯科総合病院

〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15番1号 TEL092(801)0411

No.34
2024.01



病院の理念

私たちは、地域と社会、臨床と研究、医科と歯科、過去と未来を「つなぐ病院」として、豊かな人間性を備えた有能な医療人を育成し、地域の皆様に信頼され続ける病院をめざします。

病院の基本方針

- 患者中心の医療
 - ・患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供し、地域の信頼に応えます。
- 安全・安心な高度医療の提供
 - ・医科歯科総合病院として多職種連が協働し、安全・安心で高度な医療を推進します。
- 地域医療への貢献
 - ・地域の医療・介護・福祉施設と連携し、地域の皆様の健康維持に努めます。
- 全人の医療を実践できる医療人の育成
 - ・医療人としての誇りを持ち、患者さんの身になって考えることのできる医療人の育成に努めます。

病院長年頭のご挨拶

福岡歯科大学医科歯科総合病院

病院長 坂上 竜資



新年あけましておめでとうございます。2024年が皆様にとって幸福で充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

2020年1月から国内での流行が始まった新型コロナウイルス感染症は、パンデミックの開始から約4年が経過しました。医療スタッフや職員が、その情熱と専念をもって患者様に寄り添い、医療の最前線で奮闘してくれたおかげで、私たちはコロナ禍での困難を乗り越えることができました。本院はこれからも、感染防止対策を十分に取りながら診療を続けていきます。また当院の患者様を対象に、新型コロナワクチンの接種もしておりますのでどうぞご活用ください。

近年、お口を清潔に保つことが、新型コロナウイルス感染症の予防につながることが分かってきました。また

お口の健康が全身の健康に大きく寄与することが、広く報道されています。歯周病の進行が、心臓病、肺炎、糖尿病など様々な病気を増悪させることや、歯を失うほどに、高齢になって寝たきりになる可能性が高くなるという報告もあります。福岡歯科大学は、口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の重要性を全国に先駆けて提唱してきました。本院は、これからも「口腔医学」の理念のもと、患者の皆様の人格を尊重した優しさのある医療を提供します。

本院は、15年前に日本医療機能評価機構認定病院として承認を受けて以来、5年毎に認定の更新を続けています。昨年は更新年でしたが、おかげさまで非常に高い評価を得ることができました。私たちの医療機関の特徴は、全国的に珍しい歯科大学附属の総合病院として、50床の病棟と、歯科と医科の連携をもつ多くの外来診療科を有することです。本院はこれからも質の高い、安全で安心な医療を提供していきます。

新たな年が始まる今、私たちはこれまで以上に患者様に対するケアの質を向上させ、地域社会に貢献していくことが求められています。医療の進歩に対応しつつ、患者様一人ひとりに専念し、真に必要とされる医療を提供してまいります。

皆様のご健康と幸福を心よりお祈りしております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

全身疾患と外科的治療 「出血リスクを考慮した抗血栓療法のあり方」

福岡歯科大学 医科歯科総合病院 呼吸・循環器科 教授
福岡看護大学 基礎・専門基礎分野 教授

得能 智武



冠動脈疾患における抗血栓療法（抗血小板薬を内服）は血栓症を予防し、冠動脈疾患の一次予防および二次予防としてエビデンスレベルの高い標準治療ですが、出血を助長することもあります。血栓性イベントリスクと、出血性イベントリスクはトレードオフであるため、この両者のリスク評価に基づいた抗血栓療法の調整が必要となっています。

現在行われている冠動脈病変への金属ステント留置治療は、術後の再狭窄がほとんど見られない薬剤溶出性ステントが主流です。しかし薬剤溶出性ステントでの治療後は、ステント血栓症を予防するために2種類の抗血小板薬を長期に（1年もしくはそれ以上）飲むことが必要とされ、そのため出血リスクが高いことが問題となっていました。2019年に、中等度から重度の出血が起こる可能性が高い症例群（フレイ儿や心不全、腎機能低下、貧血、末梢動脈疾患などを持ち、冠動脈治療を施行した症例において年率10.4%の出血）は、高出血リスクを有するとして、選別して扱うべきという考え方が提唱されました。2020年に改訂された日本循環器学会ガイドライン「冠動脈疾患患者における抗血栓療法」では、この考えを元に、抗血栓療法を行う場合にも出血リスクを優

先して考えることとし、抗血小板薬については、これまでよりも早めの減量を勧めるということになりました。これは第二世代、第三世代と改良された薬剤溶出性ステントが使えるようになったことで、ステント留置に伴う血栓症が減少してきたことも大きく貢献しています。これまで他疾患の手術をする上で、抗血栓療法を長期継続しているために手術を延期せざるを得なかった問題も、抗血栓療法の短縮に伴って待機期間が短縮されつつあります。また、心房細動を合併して抗凝固薬も必要な冠動脈治療の方には、抗血小板薬2剤に加えて、抗凝固薬1剤の合計3剤の抗血栓薬を服用するという場合も多々ありました。この3剤治療も出血リスクが高いことから、冠動脈治療後2週間までと短期間にとどめることが推奨されました。

このように現在の抗血栓療法は冠動脈治療の進歩とともにアップデートされてきました。最終的には金属ステントのような異物を使用せずに冠動脈を治療することが理想であり、現在は治療後の再狭窄予防薬剤が塗布されたバルーンによる血管拡張のみの冠動脈治療が普及しつつあるところです。

発達障害の診断とその対応 「小児科の立場から」

福岡歯科大学 小児科学分野 教授
鳥巣 浩幸



発達障害は、主に自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害を指し、最近の文部科学省の調査では中小学生の8.8%にその可能性があると報告されています。自閉スペクトラム症は、コミュニケーション能力や社会性に関連する発達障害で、注意欠如・多動症は、不注意、多動、衝動的な行動を特徴とする発達障害です。発達障害児（者）は社会的な活動の際、抱えている発達特性と環境（周囲の対応を含む）が合わないと活動の継続が難しくなり、しばしば支援を必要とします。ここでは支援の考え方を「他者の意図を理解することが困難」な方への対応を例に説明します。そのような方は、先生や上司から曖昧な指示を受けた場合に、指示の意図が理解できずに自分の解釈で行動することが多く、失敗につながり、しばしば注意や叱責をうけます。失敗が繰り返されると、指示者は「注意しているのにわかつてくれない」と考え、注意された本人は「なぜ認めてくれないんだ」と考えるようになります。そして、指示者が脅迫的または放任的に対応するようになると、指示される側は攻撃的または逃避的な行動をとるようになります。この悪い関係を改善するには、指示者が自分の対応を考え直すことが必要です。そのため

に、まずは先入観を捨てて「なぜ児（者）はこのような行動をするのだろうか」と疑問を持ち、児（者）の行動を冷静に観察し、児（者）の抱える発達特性を理解することが大切です。医療機関での診断や評価はこのプロセスを助けることになります。次に、その発達特性と自分の対応にミスマッチがないかを考えます。この例では、「他者の意図理解が困難」が発達特性であり、その特性と指示者の「曖昧な指示」の組み合わせがミスマッチと考えられます。この状況の改善策の一つは、指示者が指示スキルを磨くことです。「具体的に、視覚的に、短く伝える」といったスキルです。また、「意図理解の弱い」方の社会スキルを伸ばすことを考えます。「指示者の意図がわからない時にサインを出す」ことはスキルの一つです。本人を指導する際には、身に着けてほしい行動を具体的に決めて、その行動ができるまでの小さな目標をいくつか決め、できたことを褒めながら動機づけを行い、ポジティブに声かけを行うことが大切です。このように、発達障害児の支援には、発達障害児の特性の理解、丁寧な評価、そして、その人に応じた対策を立てることが重要といえます。

発達障害の診断とその対応 「障害者歯科の立場から」

福岡歯科大学 障害者歯科(スペシャルニーズ歯科) 講師
天野 郁子



自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如多動症(ADHD)といった発達障害の方は、感覚が敏感であったり、経験したことのない物事を想像できない、じっとしていられないなどの特性から、大きな音や鋭利な器具を使用する複雑な手順の歯科治療を苦手としている方が多いのではないかでしょうか。歯科治療はもちろん、日常の歯みがきが難しかったり、お口の中を見せてくれないので悪いところがあるのかもわからない、という不安を抱えているご家族もいらっしゃると思います。

当院障害者歯科では、患者さんそれぞれのお口の中の困りごとに対応いたします。地域の歯科医院からの紹介で来院される方もいらっしゃいますし、患者さんやそのご家族から連絡を受けることもあります。場合によっては麻酔管理下で治療を行うこともありますが、治療が終わった後は起きた状態でメインテナンスが行えるようにトレーニングを行います。トレーニングで歯科に慣れることができた患者さんは、定期的なメインテナンスを受けていただくために地域の歯科医院を紹介しています。

今回の連携の会では、当科を受診される患者さんの診療の流れや実際の診療風景の動画を見ていただき、地域の歯科医院でも実践できる対応法をお話しました。視覚的な物事を理解しやすいというASDの特性に合わせた絵カードを利用した視覚支援はもちろん、患者さんの良かった行動を褒めて伸ばしてあげること、どれだけの時間我慢すればいいのかの見通しを立てやすくするために数を数えることなど、普段の診療で何気なく実践されている対応が障害のある方にも有効です。

障害のある方々が生活される地域で歯科医療を受けることのできる共生社会の実現には、歯科相談の窓口や定期的な口腔管理を担う地域の歯科医院の先生との連携が大切であると考えています。治療内容や障害の程度によっては受け入れが難しいこともあると思いますので、その際は当科へご相談ください。今後ともよろしくお願ひ致します。

今回の講演で紹介した診療風景の動画は、当院ホームページの『診療科ご案内』障害者歯科のページに掲載しています。患者さんは当科の診療や雰囲気の、医療関係の方は患者さん対応の参考にご覧いただけますと幸いです。

当院ホームページ『診療科ご案内』にも掲載されています。



成人患者



小児患者

健診センターでお口の健康管理のおすすめ

病院顧問 阿南 壽 特任教授 堀部晴美

健診センターでは、身体健診と歯科健診を受けていただいた後に、お口の健康管理を専門とする歯科衛生士により、歯周病や口臭の原因となるプラークや舌苔の清掃法についてご指導させていただいている。また、「硬いものが食べにくくなった」、「時々むせるようになった」などの症状がみられる口腔機能低下症(オーラルフレイル)についても検査後、かかりつけの歯科医院の受診をおすすめしています。なお、かかりつけの歯科医院がない場合は、相談内容にあった当院の歯科診療科をご紹介させていただいている。

お身体の健康のために、お口の健康管理は重要です。歯を削って治療するだけの時代からお口の健診による予防の時代になってきました。

1年に1回、たとえば、お誕生日の月にでも、お口の健康状態のチェックを行つていただければ幸いです。



口臭予防のために歯科健診はいかがですか。

10月14日～15日にかけて、4年ぶりとなる学園祭が開催されました。福岡歯科大学医科歯科総合病院では、イベントとして、歯科無料相談と医科ミニ講座を開催いたしました。

[歯科無料相談]



歯科無料相談は、これまで学生中心の伝統的イベントとして行われてきました。今回は30名の来場者の方がご相談にみえられました。「かかりつけの歯医者さんはいるけれども、診療中はお忙しそうでなかなか気軽に相談できない」そんなお悩みもあれば、「一生自分の歯で食べたい!」というご相談まで、多くのご相談が寄せられ、皆様の健康意識の高さがうかがえました。お子様連れのご家族も多く、子供の歯ならびを気にされているというご相談もありました。来場者の方には、歯ブラシや洗口剤のおみやげをお渡しし、大変ご満足いただけました。毎年、学園祭のイベントとして行っていますので、どうぞお気軽にお越しください。

[医科ミニ講座]



医科ミニ講座では、本院勤務の医師により、14日(土)「脳卒中の予防と治療」「ロコモティブシンドローム」「胃の病気の予防と治療」、15日(日)「不整脈の予防と治療」「自宅でできる鼻喉セルフケア」「大腸の病気の予防と治療」の内容で、専門的なお話を分かりやすく、参加者に向けてお話しいただきました。二日間で約30名の参加者が来場されました。それぞれの講演の後には無料相談ブースも設けられ、残って熱心に質問される参加者の方もおられ、市民の皆様に専門的な情報を届ける大変良い機会となりました。来年もまた新しい企画を準備して、皆様のご参加をお待ちしております。

地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウム

総合医学講座 内科学分野 教授 大星博明

地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウムは、七隈線沿線にある福岡歯科大学、福岡大学および中村学園大学の友好・交流とともに、地域住民への啓発・サービス活動として、毎年開催してきた合同シンポジウムです。今年は新型コロナウイルスが5類に移行されたことから、4年振りに、「健康まるごと福岡学園」と同時に開催されました。また、新設された50周年記念講堂での初めての本シンポジウムの開催となりました。

今回のシンポジウムは「がんを知れば怖くない」をテーマとし、第一部では各大学の講師が講演を担当し、福岡大学医学部腫瘍・血液・感染症内科の田中俊裕診療教授から「がん薬物療法の最近の進歩」について、中村学園大学栄養科学部栄養科学科の小野美咲講師から「がん発症の予防や遅延に関連する食生活とは」について、福岡歯科大学口腔・顎顔面外科学講座口腔腫瘍学分野の平木昭光

教授から「口腔がんは怖くない～早期発見、治療後のQOL向上をめざして～」について、それぞれ大変興味深い講演が行われました。第二部は、来場者と講師との間で質疑応答を行う公開討論で、来場者の質問を講演終了後に書面で提出してもらい、総合司会・進行役の福岡大学病院の小川正浩副院長と福岡歯科大学総合医学講座の大星が、講演者に代理質問を行う形式を取りました。直接マイクの前に立つ必要がなかったためか、多くの質問を参加者から頂戴し、講演者からもさらに詳しい話を聞くことができました。

参加者からのアンケートでは、大変有意義でした、もう少し聞きたい、同様のテーマで良いからまた開催して欲しいなどの意見が多く、好評の内に、中村学園大学薬膳科学研究所の徳井教孝所長の閉会の辞で、シンポジウムを終了しました。参加者合計は108名で、新しい50周年記念講堂の良いお披露目の機会にもなりました。





病院機能評価は、「日本医療機能評価機構」（以下、機構）が病院の質改善を目的に行い、病院組織全体の運営管理および提供している医療について評価調査者（サーベイサー）が病院に赴き、中立的・科学的・専門的な見地から評価します。サーベイサーは事務、医療、看護を担当する3名からなり、事務サーベイサーは総括的な病院管理・事務運営等を審査、診療サーベイサーは医師が担当し、看護サーベイサーは看護師が担当しています。各サーベイサーには、「診療」「看護」「事務」「薬剤」「療法士」の5つの専門領域があります。評価の対象と項目は4領域90項目から構成され、第1領域は患者中心の医療の推進（6大項目、21中項目）、第2領域は良質な医療の実践1（2大項目、35中項目）、第3領域は良質な医療の実践2（2大項目、14中項目）、第4領域は理念達成に向けた組織運営（6大項目、20中項目）に関して、2日間にわたり審査が行われます。審査は書類確認、面接調査および各部署訪問からなり、第2領域では入院患者1～2症例のケアプロセス調査とカルテレビューが行われます。各項目はS、A、B、Cの4段階で評価され、全てB以上であれば一定水準を満たした「認定病院」となり、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得が得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院と評価されます。C評価が1項目でもれば、改善後に補充審査が求められます。

本院は2008年に受審し、認定病院の資格を得ました。資格は5年間有効ですが、3年後には継続的な質改善活動が書類審査により確認されます。本院は令和5年5月までが有効期限でしたので、今回4回目を一般病院1の区分1（100床以下）、3rd Grade, Ver.2.0で、2023年4月に受審することにしました。受審に際し、機構には幾つかの受診サポートメニューがあり、本院はサーベイサー派遣型の模擬審査（プレテスト）を受けることにしました。

本院での活動は、受審1年前の2022年4月より準備を始めました。「病院機能改善検討委員会」および各領域担当委員会において、自己評価調査票、現況調査票、根拠資料の作成に多忙な毎日を送りました。



部署訪問（病診連携室）

機構と何度も調整を重ね、プレテストを12月15日に受審することが10月に決まり、11月1日までに準備した自己評価調査票、現況調査票、根拠資料をWEB提出しました。その後、病院職員への説明会、病院ラウンド、ケアプロセス予行等を行い、準備を進めてきました。プレテストは1日間の開催で、各サーベイサーから本審査に向けて多くのコメントや指導を受けました。これを見てフィードバックすべく、調査票および根拠資料の改訂を行ってきました。

2023年に入り、本審査は4月20、21日に決定し、1月は資料の追加や修正、質疑応答対策の準備を行い、2月1日には本審査に係る書類の大半を提出しました。3月は理事長を中心とした学内審査を受け、受審の予行を行いました。

2日間にわたる本審査は厳しかったのですが、和やかに進み、職員一同は何とか2日間を耐えることができました。事前に、病院関係者にCOVID-19感染者が多く発生した場合や、サーベイサーの感染発生の場合は延期の通達を受けていましたが、何とか受審にたどり着くことができました。6月21日に審査の中間報告書が届き、第1領域は21中項目中S1項目、A19項目、B1項目、第2領域は35中項目全てがAでした。第3領域は14中項目中Aが13項目でNA（該当せず）1項目、第4領域は20中項目中A19項目、B1項目でした。総合しますと90項目の内訳は、S1項目、A86項目、B2項目、NA1項目という素晴らしい結果で、認定されました。

9月には機構より「認定証」が届きましたので、病院玄関に掲示しています。来院の際は、どうぞご覧いただけますようお願いします。



部署訪問（薬局）

令和5年度 齢科外来初診担当医表

総合歯科・高齢者歯科	月	火	水	木	金	土
午 前	山田	畠山	当番医	佐藤	口腔医療センター	口腔医療センター
午 後	山田	江頭	山本	吉田	口腔医療センター	

保存科・歯周病科	月	火	水	木	金	土
午 前	松崎・松本・水上	松本・水上	当番医	水上	当番医	当番医
午 後	吉永	丸尾	松本	大城	当番医	

補綴科	月	火	水	木	金	土
午 前	加我	高江洲	前芝	宮園	谷口	当番医
午 後	西村	山口	吉田	柴口	濱中	

口腔インプラント科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後			城戸・加倉			

口腔外科	月	火	水	木	金	土
午 前	米津	勝俣	佐々木	秋本・勝俣	勝俣	当番医
午 後	佐々木	米津	佐々木	勝俣・米津	秋本	

矯正歯科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後		阿部・安永・梶原・石井・三宅・中嶋・國見				

小児歯科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後	田平・石井	熊谷・一瀬	吉村・中野	隅・鳥尾・姫野	田平・横田	

障害者歯科	月	火	水	木	金	土
午 前						当番医
午 後		田崎・尾崎・天野・原・重松				

口腔放射線診断科	月	火	水	木	金	土
午 前	筑井	香川	筑井	香川	筑井	当番医
午 後	筑井	香川	筑井	香川	筑井	

口腔医療センター	月	火	水	木	金	土
午 前					当番医	当番医
午 後		泉・古賀・金子			当番医	

令和5年度 医科外来担当医表

内 科	月	火	水	木	金	土
午 前	植木/大星/安部	大星/北村	安部	於久/大星	北村/於久/植木	1北村 2安部 3植木 4於久 5大星
午 後()内は応援	北村/(於久)	於久/(植木)	植木/(北村)	安部/(大星)	当番医/(安部)	

※金曜午後の当番医は土曜と同じ

呼吸・循環器科	月	火	水	木	金	土
午 前			松元/得能	松元		
午 後			鶴木			

健診センター	月	火	水	木	金	土
午 前	山本<非常勤>	得能	鶴木	得能	竹本<非常勤>	無し
午 後	得能(鶴木)	鶴木(得能)	得能(鶴木)	鶴木(得能)	鶴木(得能)	

外科・内視鏡センター	月	火	水	木	金	土
午 前	神代/鴨打	(手術日)当番医	池田/神代/栗山	池田/神代/栗山	池田/栗山/鴨打	池田/栗山/鴨打
午 後 (一般外科)	神代/鴨打		(手術日)当番医	神代/栗山	池田/栗山/鴨打	
午 後 (乳腺/肛門)			渋田			

心療内科	月	火	水	木	金	土
午 前 (完全予約制)	澤本		金光		金光	当番医
午 後 (完全予約制)	金光	澤本	澤本	澤本		

耳鼻咽喉科	月	火	水	木	金	土
午 前	山野	西	当番医	田中	木村	当番医
午 後	木村	田中	当番医	西	山野	

※山野Drは外来診療担当日以外でも対応可能なことがありますので、お問い合わせください。

形成外科・美容外科	月	火	水	木	金	土
午前・午後 (完全予約制)	萩家	萩家	萩家	萩家	萩家	再診のみ

皮膚科	月	火	水	木	金	土
午 前	吉田/伊地知	伊地知/古村	吉田/伊地知	伊地知/(吉田)	古村/吉田	古村
午 後	吉田/伊地知*	伊地知	吉田/伊地知	手術日	古村/吉田	

眼 科	月	火	水	木	金	土
午 前	大島/姫野/永田/篠田	大島/姫野/永田/篠田	大島/姫野/永田/篠田	大島/姫野/永田/篠田	大島/姫野/永田/篠田	当番医
午 後	大島/(永田・姫野)/篠田	手術日	大島/姫野/永田/篠田	手術日	姫野/永田/篠田	

小児科	月	火	水	木	金	土
一般(午前)	奥園	一宮	一宮	奥園	奥園/一宮	当番医
午後 (予防接種)(予約制)	奥園				岡田/奥園	
午後 (神経・発達)(予約制)	鳥巣/一宮	鳥巣/一宮	鳥巣/一宮	鳥巣	鳥巣/一宮	

整形外科	月	火	水	木	金	土
午 前	千々岩/佐野	西尾/佐野	西尾/千々岩	千々岩/佐野	手術日	当番医
午 後 (予約制)	西尾	佐野	千々岩	佐野		

患者の皆様の権利

- 個人の尊厳を尊重され、良質な医療を公平に安心して受けける権利があります。
- 病気や診療内容について納得できる十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 十分な説明と情報提供を受けた上で治療方法などを自らの意思で選択・決定する権利があります。
- 診療における個人情報の秘密が守られ、プライバシーが保護される権利があります。
- ご自身の診療録の開示を求める権利があります。

患者の皆様へのお願い

- 良質な医療の提供を受けるためには、ご自身の健康に関する情報を正確に提供いただく必要があります。
- 納得のいく医療の提供を受けるためには、医療に関する情報と説明について十分理解できるまでお尋ねください。
- すべての方が等しく適切な医療を受けるために、患者の皆様には他の方や病院職員に支障を与えないようご配慮くださいますようお願いいたします。

第50回福岡歯科大学学会を終えて

本年の12月10日に第50回目の福岡歯科大学学会が50周年記念講堂で開催されました。昨年、福岡歯科大学は創立50周年を迎えたばかりですから、この学会は創立1年後に早くもスタートしたことになります。本学会は、福岡歯科大学、福岡看護大学、福岡医療短期大学、福岡歯科大学医科歯科総合病院のスタッフがその研究成果を発表する場です。患者さんを治療するばかりでなく、病気のメカニズムや治療の結果を研究しエビデンスを積むことも大学の使命なのです。

今年は50回記念ということで、認定NPO法人シナンテスの川原尚行先生を講師としてお招きして記念講演会を開催しました。ご存じのように川原先生はアフリカの貧困国のスーダンやタンザニアで医療援助活動をしている医師(九大出身)で、スーダンの内戦により帰国されています。その信念と情熱、そしてスーダンの困窮が身近にせまるご講演でした。スーダンの若者が日本に避難し日本語を勉強した後、

第50回福岡歯科大学学会 大会長 池邊哲郎

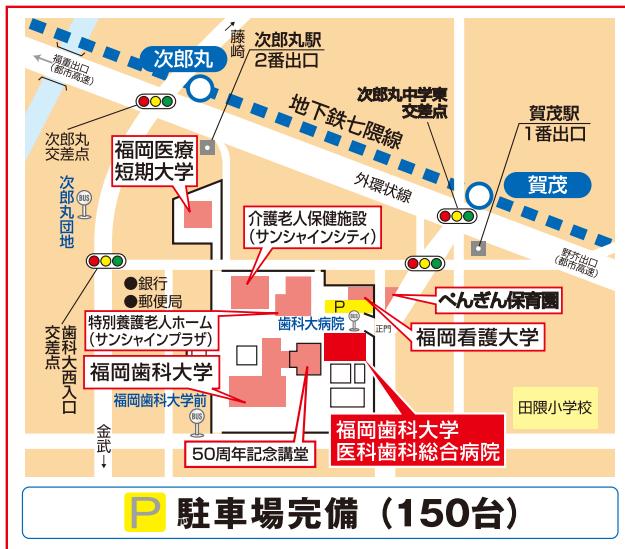
スーダン復興に貢献するため日本に留まることなく帰国し、スーダンの避難地から配信された動画で、上手な日本語で「これからスーダン」の大切さを訴えていた姿が実に印象的でした。

また、教育講演では大阪大学歯学部顎口腔機能治療学教室の阪井丘芳教授に、新しい口腔ケア用品の紹介をしていただきました。これは阪井教授が開発された除菌消臭成分MA-Tを含み、コロナウイルスにも効く優れもので、最近は犬や猫の口臭を除去することも分かりペット業界からも注目されているようです。



ロシナンテス 川原尚行先生

● 交通のご案内



P 駐車場完備 (150台)



診療時間 平日：9:00～18:00 土曜日：9:00～13:00

受付時間 平日：8:30～11:30 土曜日：8:30～11:30

12:30～17:00

※医科の新患および予約外は15:00まで

予約の変更受付時間 平日：13:30～16:30

休診日 日曜日・祝日・年末年始

面会時間 平日：13:00～20:00 休日：10:00～20:00

編集後記

新型コロナ感染症が今年5月5類に移行して7ヶ月経ちました。世の中は少しずつ人流も増え街中の人の往来も格段に多くなってきました。博多駅や天神ではインバウンド客の多言語が朝早くから耳に飛び込んできます。それでもコロナが流行しないことにびくびくしながら安心もしているところですが、病院においては全てが街中と同じというわけにはいきません。受診される方や入院される方にとっては感染することは状況によっては一大事、病院の中は職員も患者さんもまだまだ感染防止対策をしっかりしながら安心して過ごせるようにしていきたいと思っています。

サービス・マナー向上委員会委員 副病院長 中畑 高子